

やさしい日本語×多言語音声翻訳で グローバルコミュニケーション

講師：ソーシャル・エドゥケーター 萩元 直樹氏

ゲストスピーカー：やさしい日本語ツーリズム研究会 代表 吉開 章氏

令和2年8月29日（土）、静岡県浜松市でフィリピン人の生活支援や日本語学習支援を行なっているNPO法人フィリピンナガイサにより、オンライン公開講座「やさしい日本語×多言語音声翻訳でグローバルコミュニケーション」が実施されました。講師の萩元氏は元小平市役所職員です。現在は東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会に所属するかたわら、プライベートで多文化共生や観光・おもてなしのための多言語対応を各地で推進しています。講座ではさまざまな言語を母国語とする外国人が暮らす浜松市の現状を紹介しながら、やさしい日本語の活用がグローバルなコミュニケーションに有効であり、インバウンドや観光のツールとしてだけでなく、東京2020大会のホスト国として、行政におけるまちづくりにも活用できることを紹介しました。講座の後半では、やさしい日本語ツーリズム研究会代表の吉開氏が加わり、やさしい日本語を地方創生に活用していく方法が提案されました。



令和2年10月現在、浜松市には約25,000人の外国人が暮らしています。日本全国では約300万人の外国人が暮らしているので、約100人にひとりには浜松市在住といえるほどです。浜松市は、現在、89の国と地域の外国人が暮らし、多言語共生が進んだ街としても知られています。英語を母国語としない人とコミュニケーションする場合には、何語を使えば良いのか？ 萩元氏はこれまでの経験から学んだ、1.人的対応、2.表示・標識、3.補完ツールとしてVoiceTra（ボイストラ）などのICTの活用という3つの方法と日本語・英語+ピクトグラム、さらにその他必要に応じ中国語・韓国語・その他の言語というルールを紹介しました。浜松市でもこのルールに則り、ホームページにもさまざまな言語や、やさしい日本語が取り入れられています。

日本語・英語+ピクトグラムのルールを使い、より外国人に伝えやすくするためには、日本語をやさしい日本語に、英語をプレーンイングリッシュに、ピクトグラムをISO/JIS規格のピクトグラムにすることが重要です。やさしい日本語とは、日本語を学ぶ初心者にもわかりやすいように、語彙や文法を調整したものです。「はっきり言う」、「さいごまで言う」、「みじかく言う」の「はさみの法則」で話します。例えば、「高台に避難してください」は「高いところに逃げてください」、「お召し上がりになりますか？」は「食べますか？」と言いかえます。

やさしい日本語は、阪神・淡路大震災後に、日本語も英語も理解が十分でない外国人が、災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されました。その後、やさしい日本語ツーリズム研究会により、観光ツールとして使用されたことが大きな進化のきっかけとなりました。現在は知的障がい者や聴覚障がい者、高齢者など向けの民間サービスにおける活用も出てきています。しかし、やさしい日本語は、私たち日本人が敬語を使わず短く話すことに慣れるのが容易ではないこと、そもそも日本語が全く理解できない外国人には、やさしい日本語も通じないなど、普及するためには壁があります。

その壁を破る方法の一つが、多言語音声翻訳との連携です。多言語音声翻訳に認識されやすい話し方と、やさしい日本語には共通する部分があります。萩元氏は2016年リオパラリンピックで、やさしい日本語と多言語音声翻訳ツールのVoiceTraを活用し、現地の多くの方々と交流しました。萩元氏によるVoiceTraを使っ

他地域との比較

2019年12月末 データ

市	日本人	外国人	比率
新宿区	347,398	43,068	12.40%
八王子	577,560	13,120	2.27%
福生市	57,527	3,726	6.48%
小平市	196,137	5,291	2.70%
名古屋市	2,327,557	87,090	3.74%
浜松市	805,110	25,275	3.14%
全国	127,138,033	2,933,173	2.31%

多言語対応の種類



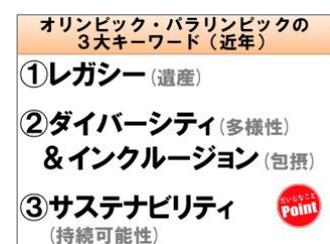
た「やさしい日本語×多言語音声翻訳」という普及活動により、やさしい日本語は、外国人のみならず子どもや高齢者、障がい者などにとっても有効なコミュニケーション手法であり、多言語音声翻訳との親和性が高くなっています。さらに、やさしい日本語を使うことで多言語音声翻訳の精度向上が期待されるということが総務省や厚生労働省によっても認められ、国をあげた活用が推進されています。



ゲストスピーカーとして参加のやさしい日本語ツーリズム研究会の吉開氏は、日本語研究者がやさしい日本語を提唱し始めた時から普及に関わってきました。吉開氏は、やさしい日本語を習得することは難しいが、VoiceTraを使用し逆翻訳することで、自分がやさしい日本語を話しているかがわかるといいます。やさしい日本語を身につけるために、VoiceTraを使用しながらゲーム感覚で遊びながら身につける方法を提案しました。



萩元氏はやさしい日本語を学ぶことは、まちづくりを推進するチャンスと話します。世界的イベントであるオリンピック・パラリンピックの3大キーワード「レガシー」「ダイバーシティ&インクルージョン」「サステナビリティ」は、そのまま「まちづくり」のキーワードとなります。東京2020大会は、世界の基準が日本社会に入ってくることであり、それを各地域が自分たちの地域にあわせていくことが重要です。まちづくりにはたくさんの方が関わるので、共通の意識を持つために目的を定め、協力して進めていくことが欠かせません。地域の経験や知恵、アイデアを活かすために、様々な人々がいる多様性のある社会を受け入れる意識変革が重要です。まさにやさしい日本語の考え方は、多様な人々を「共に社会を作っていくパートナー」として捉えるものです。これから日本が世界と交流するためにも、日本人が心得るべき話し方という認識で取り組むことが必要です。



最後は萩元氏への質問や参加者同士の意見交換が行われました。全国各地の自治体職員、学校教諭、会社員などさまざまな職種の方が参加した講座は、外国人との日頃のコミュニケーションを円滑に進めるための方法を、共に考える機会となりました。



(令和2年9月作成)

問い合わせ先

NPO 法人フィリピンナガイサ

TEL : 中村 (タガログ語) 080-4308-8380 / 松本 (日本語) 090-9175-8380

メールアドレス: filipinonagkaisa@yahoo.co.jp